

仁木一族と主要歴史人物等略年表

五九三	聖徳太子 摂政となる。
六四五	大化の改新。初めて年号をたてる。難波に遷都。
六六三	白村江の戦。日本軍、新羅・唐の水軍に敗れる。
六七二	壬申の乱。大海女皇子、大友皇子を滅ぼす。
六九四	藤原京に遷都。
七一〇	平城京に遷都。

奈良時代

養老 二	七二八	藤原不比等ら、養老律令を完成。
神亀 一	七二四	陸奥に多賀城を開く。
		律令制 配流制度 土佐遠流の国指定。
天平 一	七二九	長屋王の変。藤原光明子、聖武天皇の皇后となる。
天平 一七	七四五	平城京に遷都。
天平宝子三	七五九	諸国に常平倉を置く。
八	七六四	藤原仲麻呂の乱。
延暦 三	七八四	長岡京に遷都。
延暦 一三	七九四	平安京へ遷都。

平安時代

延暦 二二	八〇二	陸奥に胆沢城を築く。
弘仁 一	八一〇	初めて蔵人所を置く。藤原葉子の変。
天安 一	八五七	藤原良房 太政大臣となる。
天安 二	八五八	清和惟仁 第五六代天皇に即位。
貞観 八	八六六	応天門の変。藤原良房・清和天皇の摂政となる。
貞観 一五	八七三	清和天皇の第六皇子、貞純親王となる。清和源氏の祖。
延喜 二〇	九二〇	六月 貞純親王の第六皇子 経基王は、源朝臣の姓を賜る。

平安時代

安和 三	九六九
------	-----

源満仲、摂津家に接近し、橘繁延・藤原千晴を密告、安和の変に発展する。

鎌倉時代

永承 六 一〇五一 前九年の役 起こる。源頼義、安部頼時 を討つ。(一〇五七)
 永保 三 一〇八三 後三年の役 起こる。源義家、清原家衝 を討つ。(一〇八七)
 寛治 五 一〇九一 源義家への莊園寄進を禁ずる。
 承徳 二 一〇九八 源義家、院への昇殿を許される。
 保元 一 一一五六 **足利義清(仁木・細川両流の祖)** **上野国へ移住し、上西門院や八条院の判官代となり、七月十二日昇殿を許される。**

保元の乱 藤原師長が 土佐幡多郡 有井川へ配流。(青海波)
 源頼朝、伊豆へ配流される。

治承 四 一一八〇 源頼朝・源義仲挙兵。頼朝は鎌倉へ入り、侍所を設置。

寿永 二 一一八三 平氏、西国へ逃げる。源義仲が入京。足利義清・義長兄弟 備中水島の合戦で戦死。

元暦 一 一一八四 源義仲が滅ぶ。一ノ谷の合戦、平氏敗れ西走。源頼朝が鎌倉に公文所・問注所を設置。

文治 一 一一八五 屋島の戦い。壇ノ浦の戦いで平氏滅ぶ。源義経事件起きる。諸国に守護・地頭を置く。

建久 三 一一九二 源頼朝 征夷大將軍となる。

建仁 三 一二〇三 源頼家、伊豆修禪寺に幽閉され、翌年殺される。源実朝將軍となり、北条時政執権となる。

承久 一 一二一九 源実朝、公暁に殺される。

承久の乱。後鳥羽・土御門・順徳の三上皇を配流。

土御門上皇 土佐 入野村 米原(大方町) 行在所。

佐々木広綱はじめ一門の大半上皇方で戦う。 広綱の弟 信綱は、北条義時の婿であり、幕府方に属した。

貞応 一 一二二四 土御門上皇 小笠原長経により、阿波 土成町 行在所。

元仁 一 一二二四 北条泰時、執権となる。北条時房、初めての連署となる。

嘉祿 二 一二二六 九条頼経、將軍となる。

貞永 一 一二三二 貞永式目(御成敗式目) 制定。

寛元 四 一二四六 北条時頼、執権となる。

建長 四 一二五二 宗尊親王、將軍となる。

文永 五 一二六六 北条時宗、執権となる。蒙古使来朝、元の国書をもたらす。

鎌倉時代

文永 十一 一二七四 文永の役。元軍、対馬・壱岐を侵し、博多付近へ上陸。

南北朝時代

弘安	四	一二八一	弘安の役。元軍、再度来襲。
永仁	三	一二九五	城満寺開山 瑩山紹ざん禅師。
元享	一	一三二一	院政を廃し、後醍醐天皇親政。
正中	一	一三二四	正中の変。
元弘	一	一三三一	元弘の乱。
	二	一三三二	後醍醐天皇、隠岐へ配流。
			後醍醐天皇第一皇子 高良親王 土佐 幡多へ配流。
			「谷かげに 積もる木の葉のそれならで 我が身朽ちぬとなげく頃かな」(新葉和歌集)
			有井庄司 奥湊川領主大平弾正 南朝方として 赤誠をもって高良親王に仕えた。有井千代伝説。
	三	一三三三	鎌倉幕府滅びる。後醍醐天皇、京都に還幸。新たに記録所・雑訴決断所・武者所を置く
	三	一三三三	足利尊氏、鎌倉発向 仁木頼章 、尊氏の側近として、供奉。
建武	二	一三三五	中先代の乱。北条時之謀叛、この機会に護良親王殺される。足利尊氏謀叛。
	二	一三三五	足利尊氏は後醍醐天皇の新政に謀叛し、独自の武士政権を目指す。
	三	一三三六	湊川の戦い。足利尊氏・足利直義、楠正成・新田義貞を破る。
	三	一三三六	後醍醐天皇、吉野へ移る。 仁木頼章 、 丹波守護 となる。
	三	一三三六	仁木頼章 、官軍新田勢を後退させ、正月入京する。
延元	二	一三三七	兵部少輔 細川頼氏 と 阿波守護 細川和氏は、阿波国武士 漆原三郎五郎に対して、恩賞を付与す国平定に乗り出す。
暦応	一	一三三八	尊良親王、越前金崎城で自害。新田義顕自害。三月。
	一	一三三八	足利尊氏、征夷大將軍になる。 仁木義長 、 備後国守護 となる。
	四	一三三九	仁木義長 、 遠江国守護 となる。
康永	四	一三三九	細川和氏、阿波国を領国とし、初代守護となる。
	一	一三四二	仁木義長 、 伊勢国(志摩)守護 となる。
	三	一三四五	仁木義長 、侍所頭人となる。
貞和	二	一三四六	仁木義長 、伊賀国守護となる。
	五	一三四九	足利基氏、鎌倉公方となる。
観応	一	一三五〇	観応の攪乱。尊氏の弟 直義と 執事 高師直の 確執が発端。その後、尊氏・義詮 対 直義・直冬の対立を軸に幕府

主導権を巡る複雑な内紛に発展。

一 仁木頼章、尊氏と行動を共にし、頼章丹後守護となり、侍所頭人となる。

一 仁木義長、二度にわたり侍所頭人となる。

二 上杉能憲、高師直・師泰兄弟を殺す。仁木頼章、武蔵守護となり、幕府執事となる。

二 仁木義長、三河国守護となる。

一 足利直義殺される。仁木頼章、下野守護となる。

一 細川讃岐守頼春死去（頼之 父）

三 四月、足利尊氏卒去。仁木頼章幕府執事を辞任し、出家して道環と称す。

四 十二月、南朝軍総攻撃に、仁木義長の非協力的な態度をめぐり対立する。仁木頼章十三日死去。

五 十月、仁木義尹、丹波・丹後二か国の守護となる。

五 仁木義長、細川清氏を首謀者とする幕府に追われ、伊勢国に落ち延びる。細川清氏、幕府執事となる。

一 仁木頼勝、丹波国守護となる。

五 八月、斯波高経一族の没落により、仁木義長は幕府への帰参を許され、一時伊勢国守護を回復する。

六 細川頼之、政治的力量を高く評価され、幼い將軍 足利義満を補佐のため四国領を弟の 細川詮春に譲り、管領職に就任するとともに、京都に上り、近畿・中国他十二州の管領となる。

四 將軍足利義満、室町花の御所に移る。

五 細川頼之、管領職を辞し、阿波・讃岐に下国する。

二 明徳の乱。山名清敗死。

三 細川武蔵守頼之（元管領）死去（六十四歳）

四 幕府、土倉・酒屋役制を定める。

三 仁木義員、応永六年まで、伊勢国守護となる。

六 応永の乱。大内義弘敗死。

七 仁木義員、応永十年にかけて、和泉国守護に一時なる。

八 足利義満、第一回 遣明船派遣。

一 正長の土一揆起こる。

室町時代

応永

三

一三九六

六

一三九九

七

一四〇〇

八

一四〇一

正長

一

一四二八

室町時代

戦国時代

永享	一	一四二九	播磨、丹波の土一揆起こる。
	四	一四三二	將軍 足利義教、明との勘合貿易を再開。
	一〇	一四三八	永享の乱。翌年 鎌倉公方 足利持氏 討たれる。
嘉吉	一	一四四一	嘉吉の乱。赤松満祐、足利義教を殺し、自害する。
康正	一	一四五五	足利成氏、下総古河に敗走する。(古河公方の初め)
長祿	一	一四五七	將軍 足利義政、弟 政知を伊豆堀越に置く。(堀越公方の初め)
応仁	一	一四六七	応仁の乱起こる。細川勝元・山名持豊争う。
応仁	二	一四六八	伊賀仁木氏は、足利義視帰還に供奉する。
文明	二	一四七〇	伊賀仁木氏山城の国へ出陣。山城の国 木津で 狭川氏と戦う。
文明	五	一四七三	細川右京大夫勝元(管領)死去。
	九	一四七七	応仁の乱 ほぼ終結。細川勝元の子 政元が管領となり権勢を振るう。
	九	一四七七	西軍の畠山義就の攻撃を受けて、伊賀仁木氏山城の国 木津を撤退。
文明	一七	一四八五	山城の国一揆。
長享	二	一四八八	加賀一向一揆。富樫政親を滅ぼし国中を支配する。
延徳	三	一四九一	北条早雲、伊豆の 堀越公方を滅ぼす。
明応	二	一四九三	足利義材(後の 義植)が將軍職を追われ、細川政元は、堀越公方の流れを継ぐ足利義澄を將軍に擁す。
	二	一四九三	幕府の実権は 事実上 細川管領に握られる。
文亀	三	一五〇三	細川澄元、上屋形 細川政元 の養子となり、上屋形後継者争いにともない、細川澄之を滅ぼし、十九歳で管領職となる。
永正	四	一五〇七	細川右京大夫政元(管領)死去。
	五	一五〇八	三月十七日、細川一門の事実上の中心人物である 細川高国 伊勢参宮と称し、京都を出奔、伊賀国守護 仁木高長の許に身を寄せる事件が起きる。
	五	一五〇八	細川高国、四月摂津・丹波・伊賀等の諸将を率いて入京、細川澄元・三好之長、これを防ぎきれず、再度近江甲賀谷へ走り、また、將軍 細川義澄も近江へ難を逃れた。
	六	一五〇九	六月、 三好之長・長秀 父子が軍兵三千を動かし、京都奪還を試みるが、細川高国・大内義興は、ただちに大軍を派遣して攻撃、三好之長らを敗走させた。
	八	一五一一	細川澄元・三好之長、阿波に帰り、戦力を整える。

戦国時代

- 九 一五二一 細川讃岐守之持死去。
- 十五 一五一八 八月、細川高国政権を軍事的に支えていた 大内義興が、兵をまとめて帰国する事態が起き、細川二派の対立が一層激化。
- 永正 一六 一五一九 十一月、阿波で兵馬を休めていた 細川澄元・三好之長は、軍勢を擁して、兵庫に上陸。
三好之長は、阿讃の国人衆を率いて、細川高国方の越水上を攻略。後退する細川高国勢を追走し、京都に迫った。
- 一七 一五二〇 細川右京大夫澄元死去。
- 大永 一 一五二一 細川高国 との不和を取り沙汰されていた將軍 細川義植が 三月、京都を密かに脱出し、畠山尚順を頼って、阿波へ逃走する事件が起きる。
- 二 一五二二 三好長慶。二月十三日。三好元長嫡男として、誕生。
- 三 一五二三 寧波の乱。細川高国・大内義興の使者、明の寧波で争う。
- 三 一五二三 將軍 細川義植、堺へ進出し再挙を図ったが、志を果たせず、四月失意のうちに流浪の地阿波で波乱の生涯を終える。(流れ公方)
- 文永 六 一五二六 細川澄元の子、細川晴元、十二月、堺に上陸、細川高国と 戦い勝つ。
- 享禄 四 一五三一 細川高国、三好元長 と戦い敗退、自刃する。細川晴元 管領となり政権をとった。
- 天文 一 一五三二 六月二〇日、三好元長が一向一揆に攻められ、堺の顕本寺で自害。
- 二 一五三三 六月二〇日、三好長慶が、細川晴元 と本願寺証如 の和睦を斡旋する。
- 八月 三好長慶(十二歳) 一向一揆鎮圧戦(父の仇) 御園戦 長慶勝利。
- 九月 三好長慶(十二歳) 一向一揆鎮圧戦(父の仇) 城の奪還 越水城戦 長慶勝利。
- 八月 三好長慶(十三歳) VS 管領 細川晴元(父の仇) 棕橋城戦 和睦。
- 五月 三好長慶(十五歳) 一向一揆鎮圧戦(父の仇) 棕橋城戦 長慶勝利。
- 七月 三好長慶(十五歳) 一向一揆鎮圧戦(父の仇) 中島戦 長慶勝利。
- 七月 三好長慶(十八歳) VS 三好長政 父 元長の 旧領争い。引き分け。
- 八月 三好長慶(二十歳) VS 木沢長政 細川晴元命令 一庫戦 長慶敗戦。
- 十月 三好長慶(二十歳) VS 木沢長政 越水城防衛戦 勝利。
- 三月 三好長慶(二十一歳) VS 木沢長政 迎撃戦 太平寺戦 長慶勝利。
- ポルトガル人、種子島に漂着し鉄砲を伝える。

一四 一五四五 五月 三好長慶（二十四歳）VS 細川氏綱 細川晴元の命令。長慶勝利。
天文 一四 一五四五 七月 三好長慶（二十四歳）VS 細川氏綱 細川晴元命令。開城戦。長慶勝利。
天文 一五 一五四六 仁木右京進貞長 阿波入国 細川持隆に仕える。
一六 一五四七 武田信玄 「甲州法度」を定める。

二月 三好長慶（二十六歳）VS 細川氏綱 細川晴元命令。舍利寺戦。長慶勝利。
八月 三好長慶（二十六歳）VS 細川氏綱 細川晴元命令。高屋城戦。引き分け。

一七 一五四八 六月 三好長慶（二十七歳）VS 管領細川晴元・三好政長 長慶の父 元長の旧領争い。榎並城戦。長慶勝利。
一八 一五四九 一月 三好長慶（二十八歳）VS 伊丹親興 伊丹城戦。長慶勝利。

三月 三好長慶（二十八歳）VS 管領細川晴元・三好政長 長慶の父 元長の旧領争い。長慶勝利。（細川晴元政権崩壊）
ザビエル、鹿児島に来航しキリスト教を伝える。

一九 一五五〇 七月 三好長慶（二十九歳）VS 將軍足利義輝・細川晴元。中尾城戦。長慶勝利。
二〇 一五五一 二月 三好長慶（三十歳）VS 將軍足利義輝・六角義賢 走井の戦い。長慶勝利。

三月 三好長慶（三十歳）將軍足利義輝企てた、三好長慶暗殺未遂。長慶迎撃勝利。
七月 三好長慶（三十歳）VS 管領細川晴元。相国寺戦。長慶勝利。（細川氏綱を新管領に）

二二 一五五二 四月 三好長慶（三十一歳）VS 管領細川晴元・波多野晴通。八上城戦。遺恨の戦。長慶敗戦。
十月 三好長慶（三十一歳）VS 管領細川晴元を攻撃。蓮台野の戦い。引き分け

細川讚岐守持隆、三好義賢と戦い敗死。
仁木高将、三好義賢と 槍場の合戦にて戦い、仁木高将・久米義広他、全員戦死。

二二 一五五三 七月 三好長慶（三十二歳）VS 芥川孫十郎を攻撃。芥川城戦。長慶勝利。
八月 三好長慶（三十二歳）VS 將軍足利義輝を攻撃。靈山城戦。長慶勝利。足利義輝は近江へ逃走。

二二 一五五四 九月 三好長慶（三十二歳）VS 管領細川晴元・波多野晴通。八上城戦。長慶敗戦。
九月 三好長慶（三十二歳）VS 管領細川晴元・波多野晴通を攻撃。八木城戦。長慶勝利。

二二 一五五五 四月 三好長慶（三十三歳）VS 三好政長の子、正勝を攻撃。桑田の戦い。長慶勝利。
八月 三好長慶（三十三歳）VS 管領細川晴元・別所家を攻撃。三木城戦。長慶勝利。

弘治 一 一五五五 十一月 三好長慶（三十三歳）VS 管領細川晴元・赤石家を攻撃。播磨侵攻戦。枝吉城戦。
二月 三好長慶（三十四歳）VS 別所家 播磨侵攻戦。三木城戦。引き分け。

七月 三好長慶（三十四歳）VS 赤井直正。香良村の戦い。長慶敗戦。

永祿

- 一 一五五八 九月 三好長慶（三十四歳）VS 管領細川晴元・波多野晴通を攻撃。長慶敗戦。
九月 後奈良天皇崩御（六十二歳）正親町天皇踐祚。（四十一歳）三好長慶 改元申請。（永祿）
六月 三好長慶（三十七歳）VS 將軍足利義輝・細川晴元を迎撃。白川口の戦い。引き分け。
八月 尼崎 九月 堺 三好長慶は弟たちと会談。
- 二 一五五九 十一月 三好長慶は將軍足利義輝と講和し、管領細川晴元を廃して、足利義輝が実権を握る。
八月 三好長慶は畠山高政を救助。飯盛山城防衛戦。長慶勝利。
- 三 一五六〇 七月 三好長慶（三十九歳）VS 畠山高政・安見宗房の怨恨。玉櫛城戦。長慶勝利。
三好長慶（三十九歳）VS 畠山高政・安見宗房の怨恨。飯盛山城戦。長慶勝利。
三好長慶（三十九歳）大和侵攻戦。井戸城（天理市）戦。大半を平定。長慶勝利。
十月 畠山高政方として、河内に出陣してきた紀伊の根来衆も撃破。高政・宗房降伏。河内を支配下に置いた後、長慶は本拠を飯盛山城に置く。
- 三 一五六〇 十一月 三好長慶（三十九歳）松永久秀。檜牧城戦。長慶・久秀勝利。
尾張 桶狭間の戦い。織田信長、今川義元を討つ。
- 四 一五六一 信濃 川中島の戦い。（第四回目）武田信玄と 上杉謙信戦う。
- 四 一五六一 三好長慶（四十歳）VS 長沢義遠を攻撃。笑路城（京都亀岡）戦。長慶敗北。
- 四 一五六一 四月 三好長慶の末弟 十河一存死去。
- 五 一五六二 五月 三好長慶は、細川晴元を幽閉。
七月 三好長慶の嫡男 義賢・松永久秀VS 六角義賢を迎撃。（細川家復権を狙う）地蔵山城戦。三好方敗北。
三月 三好義賢VS 六角義賢・畠山高政を迎撃。久米田（岸和田市）の戦い。
三好豊前守義賢死去（長慶の次弟）（三十七歳）三好方大敗。
三好長慶（四十一歳）VS 六角義賢（足利義輝派）清水坂（京都）戦。長慶敗北。
五月 三好長慶（四十一歳）VS 畠山高政との迎撃戦。教興寺（八尾市）戦。長慶大勝利。六角義賢と和睦し京を奪回。
- 六 一五六三 一月 三好長慶（四十二歳）VS 僧兵 多武峯戦。長慶鎮圧できず。
六月 三好長慶（四十二歳）VS 僧兵 多武峯戦。長慶鎮圧できず。
三月 一日、細川晴元 摂津富田の普門寺で死去（四十五歳）
六月 ローマカトリック宣教師 ビレラ 飯盛山城において、武士 重臣三名他 七十人に洗礼。
八月 三好長慶嫡男 三好義興病死。長慶は呆然自失となり、打撃深刻。
三好長慶（四十二歳）の末弟 十河一存の子 義継 三好家の家督を継ぐ。

十二月管領細川氏綱 淀城で死去。

七 一五六四 五月 三好長慶（四十三歳）の弟 安宅冬康 飯盛山上において、三好長慶配下により誅殺された。

永禄 七 一五六四 七月四日 三好筑前守修理大夫長慶死去。飯盛山城。

三好（十河）義継後嗣となり、三好三人衆（三好長逸・三好政康・石成友通）後見となる。

八 一五六五 三好義継・松永久秀らが、將軍足利義輝を殺害。

八 一五六五 三月、仁木高長、京師より 阿波国 上大野へ至る。兵百三十、大野三村を領す。

一 一五六八 織田信長、足利義昭を奉じて京都に入る。

一 一五六八 細川真之の子、細川之照（仁木伊賀守の娘を母とする。）生まれる。

一 一五六八 長曾我部元親が、安芸国虎を攻める。安芸城陥落。国虎は菩提寺の淨貞寺で切腹。

一 一五六九 安芸城陥落前夜、安芸国虎は嫡子の千寿丸を阿波へ逃れさせ、勝瑞城の三好氏旗下、板西城の赤澤信濃守宗伝を頼らせ、その十二将の一人、安芸飛騨守として活躍した。

織豊時代

元亀 一 一五七〇 近江姉川の戦い。織田信長 浅井長政を破る。

二 一五七一 織田信長、比叡山を焼く。秋元泉守盛貞が 信州諏訪より小松島櫛淵に、来住する。

天正 一 一五七三 室町幕府滅ぶ。浅井・朝倉氏滅ぶ。

二 一五七四 一条兼定、長曾我部元親により、豊後へ逐わる。

三 一五七五 三河 長篠の戦。織田信長、武田信玄を撃破。

四 一五七六 三好長治、仁宇山の山中に隠れた 細川真之を 討とうとしたが、進軍できず。

五 一五七七 織田信長、紀伊 雑賀一揆を討つ。

五 一五七七 三好長治死去（二十三歳）

九 一五八一 九月十六日 阿波 新開氏、丈六寺において 長曾我部氏のだまし討ちにより 討死。

一〇 一五八二 細川掃部頭真之死去（二十七歳）

一〇 一五八二 仁木伊賀守、長曾我部軍に襲われ、上大野で討死。

一〇 一五八二 本能寺の変。山崎の戦い。

一一 一五八三 一宮長門守成祐死去。

一三 一五八五 羽柴秀吉、柴田勝家を 破る。羽柴秀吉 大阪城を修築。
蜂須賀家政が阿波へ入部。仁木義治（日向守高将の子孫）紺屋司に任じられる。

江戸時代

一三 一五八五 羽柴秀吉関白となる。

一四 一五八六 羽柴秀吉、太政大臣となり、豊臣姓を賜る。

一五 一五八七 豊臣秀吉、九州平定。

一六 一五八八 豊臣秀吉、刀狩を行う。海賊取締令を発す。天正大判・小判作る。

一八 一五九〇 豊臣秀吉、小田原を征伐し、奥羽を征伐し平定。全国を統一する。

一九 一五九一 豊臣秀吉、士農工商の身分制を定める。

文禄 一 一五九二 文禄の役。豊臣秀吉、朝鮮に出兵。朱印船制度を定める。

慶長 五 一六〇〇 関ヶ原の戦い。仁木義治、徳島城を受け取りに来た、小早川隆景の軍勢に、城を引き渡す。

八 一六〇三 細川之照(仁木六郎、母 仁木伊賀守の娘。)死去(三十六歳)

慶長 一九 一六一四 大坂冬の陣。

元和 一 一六一五 大坂夏の陣。豊臣氏滅ぶ。元和一国一城令を定める。

寛永 一二 一六三五 仁木義治、勝浦郡大原村に隠居して、二鬼道知斉と号す。三好時代の見聞録(昔阿波物語)を書く。

一四 一六三七 島原の乱

元禄 一五 一七〇二 浅野長矩の遺臣、吉良義央を討つ。

享保 一 一七一六 徳川吉宗 将軍となり、享保の改革始まる。

二 一七二七 大岡越前守忠相を、江戸町奉行に登用。

七 一七二二 参勤交代を緩和。

九 一七二四 仁木忠左衛門の母 死去。二月十日。

一四 一七二九 荒木袖右門(荒木千代蔵より分家・佐藤家初代)死去。十月五日。(道入信士)妻帯せず、血統一代限り。養子を貰い受ける。

元文 五 一七四〇 仁木万平(家山安休)死去。八月二十六日。

宝暦 九 一七五九 仁木式衛門 死去。八月九日。

明和 六 一七六九 壽光恵運信女(佐藤家第二代 荒木多次右衛門の妻)死去。十二月十四日。

九 一七七二 勝浦郡西須賀村 無役人 貞兵衛内より貰い受け、多次右工門(佐藤家第二代)妻となる。

安永 二 一七七三 荒木政六(佐藤家 第三代)死去。(峯月慈雲信士)七月二十九日。

名東郡上八万村西地 虎蔵内より貰い受け、多次右工門(佐藤家初代)養子となる。

荒木政六(佐藤家 第三代)死去。(峯月慈雲信士)十一月二十九日。

文化	二	一八〇五	足利義根（平島公方）阿波を退去し、京都または、紀州に行ったといわれる。
	三	一八〇六	月智榮信女。（佐藤家第三代 荒木政六の妻）死去。六月八日。
	五	一八〇八	観月淨薫信女（佐藤家第四代妻）死去。八月二十九日。
文政	六	一八二四	名東郡上八万村こなしや 相田繁右エ門内より貰い受け、榮左エ門（佐藤家第四代）妻となる。 仁木治衛門 死去。 九月二日。
天保	一	一八三〇	徳川斉昭、水戸藩を改革。お陰参り盛行。
天保	四	一八三三	岩本（香川）晴之（通称 才二郎） 十二月十六日 生誕。
	四	一八三三	荒木榮左衛門（佐藤家第四代）死去。（法壽榮算信土） 七月二十九日。（七十九歳）
	六	一八三五	有井庄司を祖とする、有井一族三十九家が、「吊古碑」を名東郡高崎村に立て、有井権現を建立。
嘉永	五	一八五二	仁木嶋衛門 死去。 一月二十五日。（八十七歳）
安政	六	一八五九	神奈川・長崎・函館の三港を開き、貿易を開始する。
慶応	一	一八六五	徳川慶喜、大政奉還を上表。王政復古の头号令。